わぽピョン
週刊 こども新聞
第30号

幸せの人形作ろう

仙台市
ミューズの夢
海をこえた応援(おうえん)で 11月にコンサート

カラフルなマジックを手に、子どもたちが、人の形に切られた布（ぬの）に絵をかいています。

新幹線（しんかんせん）の絵をかきこんだ男の子、ハートマークをならべた女の子、「JAPAN」とかいた子も。お母さんらが針（はり）と糸でぬい、綿（わた）を入れると、かわいい人形の完成（かんせい）です。名前は「ハッピードール」（幸せの人形）。

さまざまなハンディのある子どもたちと音楽やアートを楽しむ活動をしている仙台市の団体（だんたい）「ミューズの夢（ゆめ）」が、3月に開いたハッピードール作りの会。宮城野小5年の安藤葵さん（11）は「人形の女の子の目をかわいくかけた」とうれしそう。人形たちは、やがてアメリカへ旅立ちます。

ミューズの夢はちょうど10年前、ピアニストの仁科篤子さんら仙台の音楽家たちがつくり、記念（きねん）コンサートを11月23日に行います。その準備（じゅんび）の中でつながったのが、ハッピードールを広めているアメリカの団体「Happy Doll」（寺尾のぞみ代表）。

もともと「病気などで外に出られない子どもに手作り人形を送って、広い世界と出合ってもらおう」という活動で、これまで700以上の人形が作られ、ほかの国々にたくさん送られました。

ミューズの夢には「去年3月11日の震災（しんさい）で被災（ひさい）した仙台を応援（おうえん）したい」という申し出があり、今年で100年というアメリカの首都ワシントンの桜祭（さくらまつり）に集う子どもたちが100の人形を作り、送ってくれるそうです。

ミューズの夢のコンサートでは、仙台の子どもたちが、手作りした人形といっしょに歌ったり踊（おど）ったりする計画です。たくさんの願いがこめられた人形はアメリカへと送られます。

みんなに代わって人形が世界を旅し、新しい友だちと出会うのですね。

会でハッピードールを作った庄司彩夏さん（18）は、目が不自由ですが、ピアノがとても上手です。お母さんの美和さん（45）は「何（なに）があっても強い気持ちで乗りこえる、という思いをこめて、いっしょに人形を作りました」。

会では、好（す）きな言葉やメッセージを書く時間もありました。先生がそれを集めて詩を作り、曲にします。コンサートで子どもたちが発表するのだそうです。コンサートのテーマは「夢、友だち、旅」。人形作りにも重なりますね。

仁科さんらは「海をこえた応援で、みんなの心にのこるすばらしいステージにしたい」と張（は）り切っています。